論文要旨

# 自信過剰と携帯電話の料金プラン選択に関する行動の実証研究
## -仮想質問を用いたアンケート調査-

氏名：清水 祐弥（経済学部 4 年）
指導教員：大垣 昌夫 教授

本稿は仮想質問を用いたアンケート調査結果を用いて，自信過剰と携帯電話の料金プラン選択の関係を実証分析した．アンケート調査は平均年齢の高い 2 つの集団で実施した．仮想質問では，仮想的な携帯電話の使用状況のもとで，調査参加者に 4 つの携帯電話の料金プランの中から最も安いと考えるプランを選択してもらった．携帯電話の料金プランは, third-part tariff (基本料，定額範囲，超過料金を含む料金設定)の構造を持つように作成した．さらに，仮想質問の事前と事後に，仮想質問に対してどれくらい自信があるのかを質問し，仮想質問の成績と自信を比較することで事前と事後の自信過剰指数を求めた．仮想質問の後に，日常での実際の携帯電話の使用状況や行動，性別や家族構成についてのアンケートに回答してもらった．

プロビットモデルを使用した実証分析の結果，自信過剰の人ほど自分でプランを選ぶ傾向があるということがわかった．さらに，この結果は年齢，性別，同居人の有無などの条件を考慮しても，本研究のデータ内でロバストであることが確認できた．

実証分析により，実際のプラン選択能力を過大評価している自信過剰な人ほど自分でプランを選ぶということがわかった．つまり，自分でプランを選ぶ人

ほど，自信過剰でうまくプランを選べていない可能性が高い．しかし，この結果は，一般的に知られているものではない．よって，本研究の実証分析の結果を周知するだけでも，人々が携帯電話のプラン選択時に自信過剰について注意するように行動を変えられると考えられる．

さらに，分析結果の周知だけでなく, RECAP(価格の記録・評価・比較)が有効である．政府は携帯電話会社に携帯電話の料金設定についての情報開示のみを義務付ける．消費者がどのような料金を支払ったのかを，一年に一度スプレッドシートのようなわかりやすいフォーマットで公開し，開示は郵送だけでなく，データでも電子送付されるようにする．これによって，消費者はデータを読み込むだけで各社のサービスを比較できる，民間のウェブサイトなどを利用して，容易に料金プランを比較できるようになる．

高齢者は認知能力が低下し，流動性知能が低くなることが明らかになっている．携帯電話の料金プラン選択も流動性知能を必要とするため，高齢者が適切にプランを選択することはより難しい．しかし，高齢者はウェブサイトを利用することにも不慣れである可能性高いので，家族の協力によって RECAP を促進していくことが必要である．本研究の分析結果を周知することは，高齢者の家族が RECAP 利用の協力の必要性を認識するという意味でも重要である．

キーワード：自信過剰，仮想質問, third-part tariff，携帯電話料金プラン, RECAP